

India Bi-Weekly

2012年11月14日号 (対象期間: 2012年10月29日～2012年11月9日)

英国ブルーデンシャルグループ 



SENSEX指数は先々週(10月29日～11月2日)、10月30日の金融政策決定会合で追加利下げが見送られたことから下落した後に割安感から買いが入り、週間では上昇となりました。インドの金融政策については、ニュース欄と2ページ目の基礎講座をご参照ください。先週(11月5日～9日)も週の半ばまでは上昇が続きましたが、米大統領・議会選挙後に「財政の崖」に対する懸念が高まって米国株が急落したことを受けて、週間では小幅安となりました。為替は、米国の「財政の崖」に対する懸念から世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まる中、対主要通貨でインドルピー安が進みました。

【株式市場】SENSEX指数の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。上記のグラフはいずれも、2002年12月31日からの推移を示しています。

セクター別では、不動産、耐久消費財、自動車などが上昇する一方、資本財や石油・ガスなどが下落しました。個別銘柄では、医薬品のシプラが対象期間中に10.8%上昇してSENSEX指数構成銘柄の中で値上がり率トップとなりました。シプラは四半期業績が予想を上回ったことに加えて、米当局による生産設備の承認により米国への輸出ができるようになったことが好感されて、上場来の高値を更新しました。

【為替市場】インドルピーの対円レートの推移



インドルピーは先々週(10月29日～11月2日)は小動きでしたが、先週(11月5日～9日)は米大統領・議会選挙後に「財政の崖」に対する懸念が高まり、世界的にリスク資産が売られる中、対主要通貨で下落しました。特に、インドルピーの対円レートは、投資家のリスク回避姿勢が強まり対主要通貨で円高が進んだことから、3%を超える下落となりました。

【ニュース】

インド準備銀行、政策金利を据置く一方で預金準備率を2回連続で引下げ

金融

インド準備銀行(RBI、中央銀行)は10月30日、政策金利であるレポ金利(市中銀行への貸出金利)を8.0%に据置く一方、預金準備率(市中銀行が預金残高の一定割合をRBIに預入れる際の割合)を4.50%から4.25%に引下げました。経済成長率が鈍化傾向にある中、政府からは追加利下げを期待する声もありましたが、RBIはインフレ抑制を重視して追加利下げを見送りました。一方、預金準備率は前回9月17日の金融政策決定会合に次いで2回連続で引下げており、RBIは景気に一定の配慮を示しています。最近の金融政策については、2ページ目の基礎講座をご参照ください。

国民会議派のガンディー総裁、経済改革支持の姿勢を鮮明に示す

政治

国民会議派のソニア・ガンディー総裁は11月4日、ニューデリーで開かれた数千人の支持者による集会で演説し、「外国のスーパーマーケットは雇用を創出し、地方の生活水準を向上させる。農民だけではなく、市民や若者にも利益をもたらす。」と述べて、シン内閣が進める経済改革を支持する姿勢を鮮明にしました。インド政府は9月半ば以降、総合小売業の外資規制緩和など経済改革を相次いで打出しています。政治的な影響力の大きいガンディー総裁が支持の姿勢を鮮明にしたことは、経済改革の実現にとって大きな意味を持つとみられます。ガンディー総裁はラジブ・ガンディー元首相(ネルー初代首相の孫、インディラ・ガンディー元首相の長男)の夫人です。

インド政府、内閣改造

政治

インド政府は10月28日、外務大臣にクルシド法務大臣を充てるなどの内閣改造を行いました。2014年までに行なわれる総選挙に向けてイメージ刷新を図ったものとみられます。与党第一党国民会議派の幹事長で将来の首相候補と目されるラフル・ガンディー氏の入閣が注目されていましたが、党務に専念したいという本人の意向で今回の入閣は見送られました。ラフル・ガンディー氏は、ソニア・ガンディー国民会議派総裁の子息です。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とはなんら関係がありません。

2012年11月14日号(対象期間:2012年10月29日~2012年11月9日)

[インド基礎講座] 金融政策: 緩和方向に軸足を移すも、インフレを警戒して4月の利下げ以降は政策金利を据置き
 インド準備銀行(RBI)は2012年に入って、金融政策の軸足をそれまでの引締めから緩和方向に移しました。1月と3月に預金準備率を下げた後、4月には3年ぶりに政策金利であるレポ金利の引下げに踏み切りました。レポ金利は、(図2)に示すように、2010年に降インフレ抑制を目的に8.50%まで引上げられていましたが、2012年4月の利下げにより8.0%となりました。しかし、その後は、9月と10月に預金準備率を0.25%ずつ引下げて景気に一定の配慮を示したものの、追加利下げを見送っています。(図1)に示すように、インドの実質国内総生産(GDP)成長率は今年になって5%台にまで減速する一方、インフレ指標である卸売物価指数(WPI)の前年同月比上昇率は7%台後半に高止まりしています。RBIは、インフレ抑制は金融政策の第一義的な目的であり、物価の安定があってこそ持続的な経済成長は可能になるという立場を取っており、次回12月18日の金融政策決定会合においても、政策金利は据置かれるという見方が大勢になっています。

(図1)実質GDP成長率・レポ金利・WPI上昇率の推移



(注) 実質GDP成長率: 2007年1-3月期~2012年4-6月期、前年同期比
 レポ金利: 2007年1月~2012年10月
 WPI上昇率: 2007年1月~2012年9月、前年同月比

(図2)レポ金利・預金準備率の推移(2012年1月以降)

決定日 (*: 定例会合以外)	政策の 方向(注)	レポ金利 (変更前→変更後)	預金準備率 (変更前→変更後)
2012年1月24日	↓	変更なし	6.00% → 5.50%
2012年3月9日*	↓	変更なし	5.50% → 4.75%
2012年3月15日	—	変更なし	変更なし
2012年4月17日	↓	8.50% → 8.00%	変更なし
2012年6月18日	—	変更なし	変更なし
2012年7月31日	—	変更なし	変更なし
2012年9月17日	↓	変更なし	4.75% → 4.50%
2012年10月30日	↓	変更なし	4.50% → 4.25%

(注) ↑ 金融引締め ↓ 金融緩和

出所: 上記の図表はいずれも、Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について
 160年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、アジアでは13の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2011年12月末現在、約3,510億ポンド(約42兆円、1ポンド=119.81円)に上ります。



アジア株式の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インド株式に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 運用を担当するファンド・マネジャーやアナリスト・チームが徹底した企業のファンダメンタルズの調査・分析を行い、その結果をもとにポートフォリオの構築を行います。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の属するグループのインドの運用会社(ICICIAM)について

- 1993年にインド大手の民間銀行ICICI銀行の資産運用会社として設立され、1998年からはイーストスプリング・インベストメンツの属するグループとの合併で事業を展開しています。ICICI銀行は、50年以上の歴史を持ち、2012年3月末現在、総資産は約4兆7,365億ルピー(約7兆6,305億円、1ルピー=1.611円で換算)となっています。
- 設立以来、インドで資産運用事業に注力している、インド大手の運用会社です。2012年3月末現在、運用資産総額は約6,872億ルピー(インドにおけるシェア約10.3%)となっています(出所: Association of Mutual Funds in India)。

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドの株式市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(「当社」)が株式会社T&C XTF Japanに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断された材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社T&C XTF Japanは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したものではありません、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものでもありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号 加入協会 社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会
PCAアセット・マネジメント株式会社は、2012年2月14日付けで商号を「イーストスプリング・インベストメンツ株式会社」に変更いたしました。